平成 25 年７月 12 日

各　位

会社名　株式会社　原弘産
代表者の役職氏名　代表取締役社長　原　孝
（コード番号 8894 大証第２部）
問い合せ先　専務取締役　園田匡克
電話番号　０８３－２２９－８８９４

# 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向等を踏まえ、平成 25 年４月 12 日付けで公表いたしました平成 26 年２月期第２四半期累計期間の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

１．平成 26 年２月期　連結業績予想数値の修正

（１）第２四半期連結累計期間（平成 25 年３月１日～平成 25 年８月 31 日）

（単位：百万円、％）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 四半期純利益 | １株当たり四半期純利益 |
|---|---|---|---|---|---|
| 前回発表予想（A） | 6,780 | 390 | 265 | 385 | 18 円 87 銭 |
| 今回修正予想（B） | 885 | △380 | △590 | △615 | △27 円 52 銭 |
| 増減額（B－A） | △5,895 | △770 | △855 | △1,000 | ― |
| 増減率（％） | △86.9 | ― | ― | ― | ― |
| （ご参考）前期第２四半期実績（平成 25 年２月期第２四半期） | 1,056 | △265 | △389 | △397 | △20 円 91 銭 |

（２）修正の理由

第２四半期連結累計期間の売上高は、平成 25 年５月 30 日付けで公表しましたとおり、たな卸不動産の一部の売却を実施したものの、中国連結子会社における分譲マンション等の複合施設の売上計上が下半期以降にずれ込むこととなったため、計画を大幅に下回る見込みです。営業利益は、売上高の未達に伴い、経常利益は、売上高の未達及び営業外費用における支払利息が想定より増加したことに伴い、四半期純利益は、売上高の未達、和解費用引当金繰入額を特別損失に計上したこと、及び固定資産の売却等による特別利益の計上を計画していたが、売却が下半期以降となる見込みであること等から、それぞれ計画を大幅に下回る見込みです。

通期の連結業績予想につきましては、不透明な要素があるものの、第３四半期以降においては、第２四半期までに予定していた中国でのマンション販売による売上が計上される見込みであること等から現時点では据え置くことといたしました。

２．平成 26 年２月期　個別業績予想数値の修正

（１）第２四半期個別累計期間（平成 25 年３月１日～平成 25 年８月 31 日）

（単位：百万円、％）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 四半期純利益 | １株当たり四半期純利益 |
|---|---|---|---|---|---|
| 前回発表予想（A） | 565 | 10 | △80 | 290 | 14 円 21 銭 |
| 今回修正予想（B） | 870 | △300 | △370 | △400 | △17 円 90 銭 |
| 増減額（B－A） | 305 | △310 | △290 | △690 | ― |
| 増減率（％） | 54.0 | ― | ― | ― | ― |
| （ご参考）前期第２四半期実績（平成 25 年２月期第２四半期） | ― | ― | ― | ― | ― |

※前期第２四半期実績は公表していないため記載しておりません

（２）修正の理由

第２四半期個別累計期間の売上高は、平成 25 年５月 30 日付けで公表しましたとおり、たな卸不動産の一部の売却を実施したことにより増加する見込みです。営業利益及び経常利益は、たな卸不動産の売却を簿価を下回る価格で実施したことにより、四半期純利益は、前述のたな卸不動産売却による損失計上、和解費用引当金繰入額を特別損失に計上したこと、及び固定資産の売却等による特別利益の計上が下半期以降となる見込みであること等から、それぞれ計画を大幅に下回る見込みです。

通期の個別業績予想につきましては、不透明な要素があるものの、第３四半期以降において、固定資産の売却等による特別利益の計上等を計画していることから、現時点では据え置いております。

（注）上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報により作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる場合があります。

以　上